

消化器・肝臓センター



NEW ーす

NO. 16



2016.10

バイポーラ ラジオ波のご紹介

今回は、肝臓に対するラジオ波治療（RFA）の話題です。市立貝塚病院では、2015年から**バイポーラRFAシステム**を全面導入いたしました。

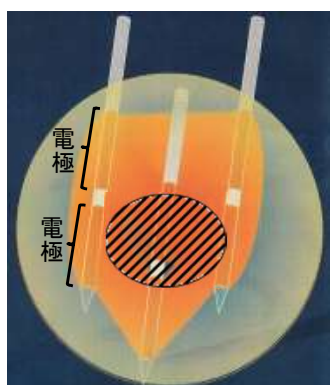
そもそも肝臓に対するラジオ波療法は、一般的に「大きさ3cm以下、個数3個以下」の肝臓例に対して超音波ガイド下で行われます。従来から使用されてきた**モノポーラRFA**は1本の治療針に電極が1か所で、対極板を必要とした心臓ペースメーカー装着例では機器障害を来す危険がありました。また、一本針のため治療範囲が制限されたり、肝臓周囲の血管の状況によっては十分な治療域が得られず複数回の穿刺が必要となる場合があります。

RFA適応

- 超音波にて描出可能な病変。
- 意思疎通可能で息止め可能。
- 腹水を認めない。
- 重大な出血傾向を認めない。
Plt. $\geq 5 \times 10^4$
PT $\geq 50\%$
- 原則として、3cm以下、3個以内。

それに対して**バイポーラシステム**では一本の治療針に電極が2か所あり、ラジオ波はその電極周囲のみを流れるため、対極板は不要で、ペースメーカー例でも施行可能です。さらに、**マルチニードルシステム**とされていますが、焼灼開始前に前もって2~3本の治療針を穿刺することで、治療開始後は同時並行して複数針による焼灼が可能となりました。その結果、電極間の腫瘍部を中心に効率的な焼灼を得ることができ、腫瘍を直接穿刺するのではなく、複数の治療針で腫瘍を囲むようにして穿刺し、ラジオ波が各電極間を流れることで腫瘍の治療ができます。

バイポーラRFA3本穿刺



オリンパス(株)提供

当院では、現在までに**バイポーラシステム**でおおよそ70例の治療を行い、入院期間も10日~2週間程度で良好な成績をあげております。今後も、適応症例に対しては積極的に取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

消化器内科 山田幸則



市立貝塚病院

TEL : 072-422-5865